

# 庄原市行政評価シート

令和5年度評価

事務事業名	庄原市出前トーク
-------	----------

所管	総務	部	行政管理	課
実施期間	平成	17	年度～	年度（終期設定が無い場合は終期を空白）
予算科目	会計	款	項	目
	01	02	01	03
	一般会計	総務費	総務管理費	文書広報費
対象者	市民等が構成する団体			対象者数など 不特定多数
根拠法令等	庄原市出前トーク実施要綱			
HPアドレス	<a href="https://www.city.shobara.hiroshima.jp/main/gobemnet/kohokocho/kocho/demae.html">https://www.city.shobara.hiroshima.jp/main/gobemnet/kohokocho/kocho/demae.html</a>			
実施目的	集会、学習会等に市職員を派遣し、職員の専門知識を生かした説明、懇談等を行うことにより、市民の市政に対する理解を深め、まちづくりへの意識啓発を図るとともに、市民の要望及び意見を幅広く市政に反映させ、市民と行政との協働によるまちづくりを進めることを目的としている。			
事務事業の概要	<p>【対象】市内に在住、または通勤・通学する概ね10人以上が参加するグループや団体          ※政治、宗教または営利を目的とした集会などは除く</p> <p>【実施期間・時間】原則、平日の9時～21時で1回当たり2時間以内</p> <p>【会場】申し込み団体・グループで準備</p> <p>【その他】開催を希望する日の2週間前までに、来庁・郵送・FAX・電話・電子メール等で申し込みを行う。          ※リモートでの開催を希望する場合は対応可能。</p>			
年度別実績概要	令和2年度	メニュー数:104メニュー(子ども向け16メニュー) 実施回数:70回(地域別開催実績:庄原50、西城4、東城11、口和0、高野2、比和3、総領0) 利用頻度の高いメニュー:庄原版終活ノート「いきかたノートについて」、高齢者の健康づくり、こころの健康づくり		
	令和3年度	メニュー数:105メニュー(子ども向け18メニュー) 実施回数:47回(地域別開催実績:庄原34、西城2、東城1、口和0、高野3、比和7、総領0) 利用頻度の高いメニュー:高齢者の健康づくり、庄原版終活ノート「いきかたノートについて」、高齢者の権利を守ろう		
	令和4年度	メニュー数:105メニュー(子ども向け18メニュー) 実施回数:89回(地域別開催実績:庄原70、西城8、東城9、口和1、高野1、比和0、総領0) 利用頻度の高いメニュー:高齢者の健康づくり、高齢者の食事で気をつけたいこと、災害に備えて		

実績指標 (単位:千円)

事業費(インプット)	項目	内容	R2	R3	R4	計
	事業費					
						0
						0
		計		0	0	0
財源	国県支出金					0
	地方債					0
	その他					0
	一般財源		0	0	0	0

指標名称		単位	基準値	R2	R3	R4	計
実績(アウトプット)	1	メニュー数	メニュー	104	105	105	314
	2	子ども向けメニュー数	メニュー	16	18	18	52
	3						0
成果(アウトカム)	1	実施回数	回	70	47	89	206
	2	参加人数	人	1,262	732	1,379	3,373
	3						0
備考							

事務事業名	庄原市出前トーク
-------	----------

評価項目	所管課	市民意見	評価委員会	評価平均(上段)・分布(下3段)
(評価は、A=1,B=0,C=△1とした平均値で、A,B+,B-,Cの5段階判定)				市民意見
				評価委員会
<b>優先度</b>	<b>B</b>			
A	同じ分野の他の事業と比較し、優先度が高い事業である。			
B	同じ分野の他の事業と比較し、優先度は中くらいの事業である。			
C	同じ分野の他の事業と比較し、優先度が低い事業である。			
<b>認知度</b>	<b>B</b>			
A	対象者以外にも、おおむねの内容は知られている事業である。			
B	対象者には、おおむねの内容は知られている事業である。			
C	一部の者を除き、事業があることすら知られていない。			
<b>有効性</b>	<b>A</b>			
A	費用に対して、効果・成果が高い事業である。			
B	費用に対して、効果・成果が中くらいの事業である。			
C	費用に対して、効果・成果が低い事業である。			
<b>受益者満足度</b>	<b>A</b>			
※受益者: 市民等が構成する団体				
A	受益者(対象者)は、満足している事業内容である。			
B	どちらともいえない。			
C	受益者(対象者)が、満足できない事業内容である。(改善要望がある ほか)			
<b>市民(納税者)納得度</b>	<b>B</b>			
A	目的・費用・自己負担・内容等から、対象者以外も納得できる事業である。			
B	どちらともいえない。			
C	目的・費用・自己負担・内容等から、対象者以外は納得できない事業である。			
<b>代替性</b>	<b>A</b>			
A	収益性や技術面から民間での実施が難しく、市が実施すべき事業である。			
B	民間での実施も可能であるが、公共性・公平性などから市が関与すべき事業である。			
C	市の関与は委託や助成とし、民間等での実施を検討すべき又は市が関与する必要はない事業である。			
<b>まちづくり基本条例適合性</b>	<b>B</b>			
A	市民(団体等を含む。)の自立を促進する事業である。			
B	市民の自立促進までは期待できないが、条例の趣旨(市民が主役のまちづくり)に沿った事業である。			
C	条例の趣旨に沿った実施形態となるよう、手法・内容を見直すべき(終了を含む。)事業である。			

<b>所管課評価</b>	<b>現行どおり</b>
<b>視点</b>	<p>気軽に利用できる広聴機会として、年々実施回数が増加していたが、令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の拡大により、申し込みを控える団体が増えたほか、実施予定としていた出前トークが中止となり、実施回数が減少した。実施した出前トークにおいては、会場での質問や要望について随時対応したほか、実施後の利用者アンケートで、様々な意見等を聴取することができた。</p>
<b>課題</b>	<p>実施地域や、実施メニューなどに偏りがある。実績がないメニューなどについては、社会情勢や市民ニーズの変化に応じたメニューの見直しを行う必要がある。出前トークのメニュー変更時に広報しようばらなどで啓発を行っているが、利用者が限定的であるため、今後も様々な機会を通じて啓発を実施する必要がある。</p>